



梅島小だより

「時を守り、場を清め、礼を正す」

校長 近津 勉

先日、海外のプロゴルフの試合で、日本から参加している畑岡奈紗選手のこんなしぐさが話題になりました。

18番グリーンから降りてくるところで、グリーンにできた「へこみ」をかがんで直し、そしてコースに向き直って、一礼してグリーンを降りたのです。最終組でプレーしていたので、後続の組はいません。そんななかでもマナーを重んじる姿に、外国人メディアの一人が「すばらしい」とつぶやいたそうです。

同じようなことが、昨年の「マスターズ(プロゴルフトーナメント)」でもありました。松山英樹選手が優勝した直後、キャディの早藤将太さんがピン(旗)をカップに戻し、帽子をとって深々とお辞儀をした姿です。この映像が、世界中から賞賛を浴びたことはご記憶にある方も多いと思います。

私は、この2つのエピソードから「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉を連想しました。

これは、哲学者の森信三氏の言葉です。この言葉は、教育現場だけでなく、企業理念や社会人教育など多方面で活用されておりますので、ご存知の方も多いと思います。

【時を守り】

これは「遅刻をしない、期日を守る」ということです。定刻までには準備を整え、きたるべき時に備えて心を静めて開始を待つということです。時を守る先には、必ず相手があります。自らが時を守ることで、相手や他者を敬うことにつながります。

【場を清め】

これは「整理整頓をし、掃除をほどこす」ということです。整理整頓をし、場をきれいに保つことは、

- 1 細かいことに気づく人にし、それによって相手からの信用や信頼を増していく
- 2 心を磨く
- 3 謙虚になれる
- 4 感動する心
- 5 感謝の心が芽生える

などの意味があります。単に身の回りの整理整頓や掃除であっても、相手や他者を敬うことにつながると考えます。

【礼を正す】

これは「あいさつをする、返事をする」ということです。「あいさつ」をすることで人間関係は良好に保たれます。挨拶も、相手や他者を敬うことにつながります。

このような姿は、一朝一夕には身につきません。繰り返し、あらゆる場面で意識づけられることで、自然な振る舞いとして身につくと考えます。